

2024年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名			基礎柔整学 I	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第1柔整普通教室
教員名			藤田 実	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復学の基礎となる部分を理解、習得し基礎的な見地のある柔道整復師となれる事を目的とする。 人体に加わる力、骨の形態と機能、骨損傷の概説、骨損傷の分類、骨損傷の症状に対し、説明できるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	I-1.柔道整復術および柔道整復師の沿革		
2	1	2	I-2. 業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領		
3	1	2	II-1. 人体に加わる力・II-2. 損傷時に加わる力		
4	1	2	II-3.痛みの基礎		
5	1	2	II-4-1.骨の損傷A		
6	1	2	II-4-1.骨の損傷B		
7	1	2	II-4-1.骨の損傷C ①		
8	1	2	II-4-1.骨の損傷C ②		
9	1	2	II-4-1.骨の損傷C ③		
10	1	2	II-4-1.骨の損傷D ①		
11	1	2	II-4-1.骨の損傷D ②		
12	1	2	II-4-1.骨の損傷D ③		
13	1	2	総復習		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席)					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学・理論編 :南江堂					
教員について【実務経験有】					
担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。					

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎柔整学Ⅱ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1柔整普通教室
教員名	鈴木 勇也		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復学の基礎となる部分を理解、習得し基礎的な見地のある柔道整復師となれる事を目的とする。 骨折の合併症、小児高齢者の骨折、骨折の治癒経過、骨折の予後を理解し、説明できるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	骨折の合併症概説、併発症	
2	1	2	続発症 1	
3	1	2	続発症 2	
4	1	2	続発症 3	
5	1	2	後遺症 1	
6	1	2	後遺症 2	
7	1	2	後遺症 3	
8	1	2	骨折の合併症復習	
9	1	2	小児骨折	
10	1	2	高齢者の骨折	
11	1	2	骨折の治癒経過	
12	1	2	骨折の骨癒合日数、骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子	
13	1	2	総復習	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・理論編 : 南江堂				
教員について【実務経験有】				
担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎柔整学Ⅲ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1柔整普通教室
教員名	羽田 哲也		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復学の基礎となる部分を理解、習得し基礎的な見地のある柔道整復師となる事を目的とする。 関節の構造と形態、関節損傷の分類、脱臼を理解し、説明できるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷A 1	
2	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷A 2	
3	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷B 1	
4	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷B 2	
5	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷C 1	
6	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷C 2	
7	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷D	
8	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷E	
9	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷F 1	
10	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷F 2	
11	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷G 1	
12	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷G 2	
13	1	2	Ⅱ-4-2.関節の損傷G 3	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席) 3)臨時試験、授業態度、提出物等を加味する。				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・理論編:南江堂				
教員について【実務経験有】				
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎柔整学IV		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1柔整普通教室
教員名	羽田 哲也		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復学の基礎となる部分を理解、習得し、人体構造の系統、生理作用を把握し、正常構造について統合的に理解した上での基礎的な見地のある柔道整復師となれる事を目的とする。 筋の損傷、腱の損傷、末梢神経の損傷を理解し、説明できるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	Ⅱ-4-3.筋の損傷A	
2	1	2	Ⅱ-4-3.筋の損傷B、C	
3	1	2	Ⅱ-4-3.筋の損傷E	
4	1	2	Ⅱ-4-3.筋の損傷F	
5	1	2	Ⅱ-4-4.腱の損傷A、B、C	
6	1	2	Ⅱ-4-4.腱の損傷D、E	
7	1	2	Ⅱ-4-5.末梢神経の損傷A、B	
8	1	2	Ⅱ-4-5.末梢神経の損傷C 1	
9	1	2	Ⅱ-4-5.末梢神経の損傷C 2	
10	1	2	Ⅱ-4-5.末梢神経の損傷D、E	
11	1	2	Ⅱ-5.診察A、B	
12	1	2	Ⅱ-5.診察C、D	
13	1	2	Ⅱ-5.診察E	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席) 3) 臨時試験、授業態度、提出物等を加味する。				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・理論編:南江堂 生理学:南江堂				
教員について【実務経験有】				
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎柔整学Ⅴ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1柔整普通教室
教員名	天和 航平		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復学の基礎となる部分を理解、習得し基礎的な見地のある柔道整復師となれる事を目的とする。 基礎的な骨折の整復法、脱臼の整復法、固定法、後療法、指導管理を理解し、説明できるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	Ⅱ-6-1.整復法①(主に骨折の整復法)	
2	1	2	Ⅱ-6-1.整復法②(主に脱臼の整復法)・RICE処置	
3	1	2	Ⅱ-6-2.固定法	
4	1	2	Ⅱ-6-3.後療法(主に手技療法)	
5	1	2	Ⅱ-6-3.後療法(運動療法)	
6	1	2	Ⅱ-6-3.後療法(主に物理療法の分類・電気療法)	
7	1	2	Ⅱ-6-3.後療法(温熱療法・光線療法)	
8	1	2	Ⅱ-6-3.後療法(寒冷療法・牽引療法・その他)	
9	1	2	復習問題及び解答・解説 (※成績には含まない)	
10	1	2	Ⅱ-6-4.指導管理	
11	1	2	Ⅱ-7-1.外傷予防の第一段階①	
12	1	2	Ⅱ-7-1.外傷予防の第一段階②	
13	1	2	Ⅱ-7-1.外傷予防の第一段階③ Ⅱ-7-2.外傷予防の第二段階(早期発見・早期治療) Ⅱ-7-3.外傷予防の第三段階	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)板書及び説明 2)プリント配布				
評価方法				
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・理論編:南江堂				
教員について【実務経験有】				
柔道参段、整形外科での実務経験が約7年。現場で診させていただいて得た知識・技術を基にして、基礎はもちろんのこと、臨床経験も交えながら、授業を展開します。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎柔道整復総合学 I		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1柔整普通教室
教員名	天和 航平		講義形式	講義
学習目標と講義概要	骨格系の基本的な構造と機能を理解することは必須である。上肢の骨格、筋の構造を三次元的に理解し、骨と骨との連結(関節)の構造と機能、それらが構成する運動器の全体構造とそれらの立体的な構成、骨格筋の起始、停止、支配神経および作用を理解し説明できるようにする。全体構造とそれらの立体的な構成について機能に関連付けて理解し、柔道整復師として必要なレベルで、統合的かつ三次元的に説明できるようになることを到達目標とする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	骨格系総論①	
2	1	2	骨格系総論②	
3	1	2	骨格系総論③	
4	1	2	上肢の骨①	
5	1	2	上肢の骨②	
6	1	2	上肢の骨③	
7	1	2	上肢の関節①	
8	1	2	上肢の関節②	
9	1	2	上肢の筋①	
10	1	2	上肢の筋②	
11	1	2	上肢の筋③	
12	1	2	総合演習①	
13	1	2	総合演習②	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び骨模型を用いて説明 2) プリント配布				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
解剖学: 医歯薬出版株式会社				
教員について【実務経験有】				
柔道参段、整形外科での実務経験が約7年。現場で診させていただいて得た知識・技術を基にして、基礎はもちろんのこと、臨床経験も交えながら、授業を展開します。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎柔道整復総合学Ⅱ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1柔整普通教室
教員名	小林 耕平		講義形式	講義
学習目標と講義概要	骨格系の基本的な構造と機能を理解することは必須である。下肢の骨格、筋の構造を三次元的に理解し、骨と骨との連結(関節)の構造と機能、それらが構成する運動器の全体構造とそれらの立体的な構成、骨格筋の起始、停止、支配神経および作用を理解し説明できるようにする。全体構造とそれらの立体的な構成について機能に関連付けて理解し、柔道整復師として必要なレベルで、統合的かつ三次元的に説明できるようになることを到達目標とする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	筋系総論①	
2	1	2	筋系総論②	
3	1	2	筋系総論③	
4	1	2	下肢の骨①	
5	1	2	下肢の骨②	
6	1	2	下肢の骨③	
7	1	2	下肢の関節①	
8	1	2	下肢の関節②	
9	1	2	下肢の筋①	
10	1	2	下肢の筋②	
11	1	2	下肢の筋③	
12	1	2	総合演習①	
13	1	2	総合演習②	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び骨模型を用いて説明 2) プリント配布				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
解剖学: 医歯薬出版株式会社				
教員について【実務経験有】				
担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎柔道整復総合学Ⅲ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1柔整普通教室
教員名	藤田 実		講義形式	講義
学習目標と講義概要	骨格系の基本的な構造と機能を理解することは必須である。頭部・体幹の骨格、筋の構造を三次元的に理解し、尚且つ付随する神経系や血管系も理解し説明できるようにする。全体構造とそれらの立体的な構成について機能に関連付けて理解し、柔道整復師として必要なレベルで、統合的かつ三次元的に説明できるようになることを到達目標とする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	頭部の骨①	
2	1	2	頭部の骨②	
3	1	2	体幹の骨①	
4	1	2	体幹の骨②	
5	1	2	頭部の関節	
6	1	2	体幹の関節①	
7	1	2	体幹の関節②	
8	1	2	頭部の筋	
9	1	2	体幹の筋①	
10	1	2	体幹の筋②	
11	1	2	頭部体幹の神経血管系	
12	1	2	総合演習①	
13	1	2	総合演習②	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
解剖学・医歯薬出版				
教員について【実務経験有】				
担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎柔道整復総合学Ⅳ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1柔整普通教室
教員名	木野田 浩平		講義形式	講義
学習目標と講義概要	人体の構造についての知識は、すべての医療従事者にとって最も基礎となる知識であると同時に、臨床の場では病態を理解するための大きな武器となる。また、人間の体のつくり(構造)を学び、人体に興味を持つ。ほかの基礎分野、専門基礎分野、専門分野を学ぶ上で総合的に柔道整復師として必要な知識を習得し、将来柔道整復師として施術にあたるに必要な人体構造の理解を目的とする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	意義と分類	
2	1	2	細胞および組織・発生	
3	1	2	発生・器官系統・人体の区分	
4	1	2	脈管系:総論	
5	1	2	脈管系:心臓	
6	1	2	脈管系:心脈管系(動脈系・静脈系)	
7	1	2	前半総復習	
8	1	2	消化器:口～食道	
9	1	2	消化器:胃～大腸	
10	1	2	消化器:肝臓・胆嚢	
11	1	2	消化器:膵臓:腹膜	
12	1	2	呼吸器:外鼻・鼻腔・咽頭・喉頭・気管と気管支	
13	1	2	呼吸器:肺・胸膜・縦隔	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)板書等を用いて説明 2)プリント配布				
評価方法				
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席) 3)授業内試験				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
解剖学:医歯薬出版株式会社				
教員について【実務経験有】				
柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎柔道整復総合学V		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1柔整普通教室
教員名	小林 耕平		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復学の基礎となる人体の構造や機能を中心に学び理解していく。人体構造の系統、生理作用を把握し、正常構造について統合的に理解し、器官と部位、機能について理解する。器官の三次元的関係を把握し、説明でき、単に名称の羅列ではなく、総合的な知識を身につける。人体について広範囲的に学び、医療現場にて患者へ必要かつ理解しやすい説明が行える知識を習得することを目標にしている。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	生理学の基礎 1 (細胞小器官・能動輸送・受動輸送)	
2	1	2	生理学の基礎 2 (体液・酸塩基平衡)	
3	1	2	血液	
4	1	2	循環	
5	1	2	呼吸	
6	1	2	尿の生成と排泄 1	
7	1	2	尿の生成と排泄 2	
8	1	2	消化と吸収	
9	1	2	栄養と代謝	
10	1	2	内分泌 1	
11	1	2	内分泌 2	
12	1	2	生殖	
13	1	2	体温とその調節	
14	1	2	骨の生理 ・ 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化	
15	1	2	単位認定試験・解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
生理学:南江堂				
教員について【実務経験有】				
担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	臨床柔整学 I		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1柔整普通教室
教員名	藤田 実		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復師として日常でも比較的良好に遭遇する上肢の骨折について症状、整復、固定、合併症などを軽い実技なども取り入れながら学んでいく。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	上肢帯の機能解剖	
2	1	2	鎖骨骨折①	
3	1	2	鎖骨骨折②	
4	1	2	肩甲骨骨折	
5	1	2	上腕骨の機能解剖	
6	1	2	上腕骨近位部の骨折①	
7	1	2	上腕骨近位部の骨折②	
8	1	2	上腕骨近位部の骨折③	
9	1	2	上腕骨骨幹部の骨折	
10	1	2	上腕骨遠位部の骨折①	
11	1	2	上腕骨遠位部の骨折②	
12	1	2	上腕骨遠位部の骨折③	
13	1	2	総復習	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学 理論編改訂第7版:南江堂				
教員について【実務経験有】				
担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	臨床柔整学Ⅱ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1柔整普通教室
教員名	小林 耕平		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復師として整復学各論の頭部、体幹の脱臼および軟部組織損傷について理解することを目的とする。頸椎、胸椎の各脱臼および頸部、胸背部、腰部の各障害における発生機序、整復法、治療法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等をきちんと理解し、臨床の現場で患者に対しインフォームドコンセントができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	前腕骨の機能解剖	
2	1	2	前腕骨近位端部骨折1	
3	1	2	前腕骨近位端部骨折2	
4	1	2	前腕骨近位端部骨折3	
5	1	2	前腕骨骨幹部骨折1	
6	1	2	前腕骨骨幹部骨折2	
7	1	2	前腕骨遠位端部骨折1	
8	1	2	前腕骨遠位端部骨折2	
9	1	2	手部の機能解剖	
10	1	2	手指部の骨折1	
11	1	2	手指部の骨折2	
12	1	2	手指部の骨折3	
13	1	2	手指部の骨折4	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学理論編第7版:南江堂				
教員について【実務経験有】				
担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎実技 I		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名	小林 耕平、藤田 実		講義形式	実技
学習目標と講義概要	柔道整復師として、各骨のランドマークや筋肉を触察できることを目的とする。 骨の位置や筋の走行・作用を考慮しつつ触察することで柔道整復師として臨床現場に出た際の触診の基礎の触って診ることを身につける。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	人体各部の関節運動概説	
2	1	2	体幹部の解剖	
3	1	2	骨のランドマーク部位の触察(体幹)	
4	1	2	体幹の筋肉の触察 1	
5	1	2	体幹の筋肉の触察 2	
6	1	2	上肢の解剖	
7	1	2	骨のランドマーク部位の触察(上肢)	
8	1	2	上肢の筋肉の触察 1	
9	1	2	上肢の筋肉の触察 2	
10	1	2	下肢の解剖	
11	1	2	骨のランドマーク部位の触察(下肢)	
12	1	2	下肢の筋肉の触察 1	
13	1	2	下肢の筋肉の触察 2	
14	1	2	総復習	
15	1	2	単位認定試験、解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・実技編 : 南江堂				
教員について【実務経験有】				
(藤田先生) 担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。 (小林先生) 担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上接骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。				

2024年度 授業要項

区分		専門分野	履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名		基礎実技Ⅱ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員	使用教室	第1実習室
教員名		鈴木 勇也、伊藤 拓	講義形式	実技
学習目標と講義概要		柔道整復師として、最大限の効果のあるテーピングが行えるようになることを目的とする。 機能解剖学と病態評価に基づいたテーピング固定が行えるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	テープの種類と機能、基礎	
2	1	2	足関節、足部の機能解剖	
3	1	2	足関節固定テープ 1	
4	1	2	足関節固定テープ 2	
5	1	2	膝関節の機能解剖	
6	1	2	膝関節固定テープ 1	
7	1	2	膝関節固定テープ 2	
8	1	2	肩関節の機能解剖	
9	1	2	肩関節固定テープ	
10	1	2	肘関節の機能解剖	
11	1	2	肘関節固定テープ	
12	1	2	各部固定テープ復習 1	
13	1	2	各部固定テープ復習 2	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・実技編 : 南江堂 包帯固定学改訂第2版: 南江堂				
教員について【実務経験有】				
(鈴木先生) 担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。 (伊藤先生) 柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎実技Ⅲ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名	天和 航平、藤田 実		講義形式	実技
学習目標と講義概要	柔道整復師として、スポーツ選手へのメディカルケア、コンディショニングケアが行えるようになることを目的とする。医療現場での【評価】を身につけさせると共に、スポーツ現場で必要となる応急処置能力、再発防止のトレーニング指導能力、コンディショニング指導能力を身につけさせる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	MMT(総論)	
2	1	2	MMT(各論:上肢)	
3	1	2	MMT(各論:下肢)	
4	1	2	MMT(各論:体幹)	
5	1	2	ROM(総論)	
6	1	2	ROM(各論:上肢)	
7	1	2	ROM(各論:下肢)	
8	1	2	ROM(各論:体幹)	
9	1	2	四肢長および周径、深部腱反射①	
10	1	2	四肢長および周径、深部腱反射②	
11	1	2	ストレッチング①	
12	1	2	ストレッチング②	
13	1	2	競技者の外傷予防	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
1) 配布資料 2) 教科書(その都度指定)				
教員について【実務経験有】				
(藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。				
(天和先生)柔道参段、整形外科での実務経験が約7年。現場で診させていただいて得た知識・技術を基にして、基礎はもちろんのこと、臨床経験も交えながら、授業を展開します。				

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	基礎実技IV		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名	鈴木 勇也、天和 航平		講義形式	実技
学習目標と講義概要	基礎的な柔道整復学を基に、柔道整復師としての資質を涵養することを目的とする。 外傷治療における固定の重要性と各種固定資材の種類について理解させ、環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯、亀甲帯、麦穂帯などの基本包帯法およびデゾー包帯、ヴェルポー包帯、ジュール包帯などの冠名包帯法について習得させる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	1.固定(固定の目的、範囲、肢位)、2.固定材料の種類と適用、3.上手な巻軸帯の巻き方と注意事項、4.巻軸帯の巻き戻し	
2	1	2	5.基本包帯法(環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯) 1	
3	1	2	5.基本包帯法(環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯) 2	
4	1	2	5.基本包帯法(環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯) 3	
5	1	2	5.基本包帯法(折転帯、亀甲帯、麦穂帯) 1	
6	1	2	5.基本包帯法(折転帯、亀甲帯、麦穂帯) 2	
7	1	2	5.基本包帯法(折転帯、亀甲帯、麦穂帯) 3	
8	1	2	6.冠名包帯法(デゾー) 1	
9	1	2	6.冠名包帯法(デゾー) 2	
10	1	2	6.冠名包帯法(ヴェルポー、ジュール) 1	
11	1	2	6.冠名包帯法(ヴェルポー、ジュール) 2	
12	1	2	総復習	
13	1	2	総復習	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
包帯固定学改訂第2版:南江堂				
教員について【実務経験有】				
(鈴木先生)担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。 (天和先生)柔道参段、整形外科での実務経験が約7年。現場で診させていただいて得た知識・技術を基にして、基礎はもちろんのこと、臨床経験も交えながら、授業を展開します。				

2024年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名			応用実技 I	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第1実習室
教員名			伊藤 拓、森 俊明	講義形式	実技
学習目標と講義概要			歴史ある柔道整復術について理解を深め、先人達が築き上げてきた治療法を習得させることを目的とする。固定に使用する副子の基本的な用途について理解させ、厚紙副子、金属副子、ギブス、キャストなどの作製と基本的な固定技術を習得させる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	11.固定材料の作成と固定例(A.厚紙副子、すだれ副子) 1		
2	1	2	11.固定材料の作成と固定例(A.厚紙副子、すだれ副子) 2		
3	1	2	11.固定材料の作成と固定例(A.厚紙副子、すだれ副子) 3		
4	1	2	11.固定材料の作成と固定例(B.金属副子) 1		
5	1	2	11.固定材料の作成と固定例(B.金属副子) 2		
6	1	2	11.固定材料の作成と固定例(C.アルミ副子) 1		
7	1	2	11.固定材料の作成と固定例(C.アルミ副子) 2		
8	1	2	11.固定材料の作成と固定例(D.ギブスと給水硬化性キャスト材) 1		
9	1	2	11.固定材料の作成と固定例(D.ギブスと給水硬化性キャスト材) 2		
10	1	2	11.固定材料の作成と固定例(E.ロール状熱可逆性キャスト材)		
11	1	2	11.固定材料の作成と固定例(F.板状熱可逆性キャスト材)		
12	1	2	11.固定材料の作成と固定例(H.テープを用いた指骨骨折の牽引療法)		
13	1	2	総復習		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席) 3) 確認試験、授業態度、提出物等を加味する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
包帯固定学改訂第2版:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (伊藤先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。					

2025年度 授業要項

区分		専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名		応用実技Ⅱ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名		森 俊明、小林 耕平		講義形式	実技
学習目標と講義概要		基礎的な柔道整復学を基に、柔道整復師としての資質を涵養することを目的とする。 外傷治療における包帯の汎用性の高さについて理解させ、人体各部位別の包帯技術について習得させる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	7.部位別包帯法(A.頭部・顔面)		
2	1	2	7.部位別包帯法(B.肩部 C.肘部)		
3	1	2	7.部位別包帯法(D.前腕部 E.手関節部)		
4	1	2	7.部位別包帯法(F.手指部)		
5	1	2	7.部位別包帯法(G.股関節部 H.大腿部)		
6	1	2	7.部位別包帯法(I.膝関節部 J.下腿部)		
7	1	2	7.部位別包帯法(K.足関節部)		
8	1	2	7.部位別包帯法(L.足指部)		
9	1	2	7.部位別包帯法(M.胸部・背部)		
10	1	2	8.その他の包帯法		
11	1	2	9.三角巾		
12	1	2	10.さらしによる固定		
13	1	2	総復習		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
包帯固定学改訂第2版:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。					

2024年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	臨床実習 I		履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	臨床実習室
教員名	藤田 実、伊藤 拓、天和 航平		講義形式	実習
学習目標と講義概要	臨床に携わる重要性を理解し、柔道整復師として心構えを備えることを目的とする。 付属臨床施設で行われている施術を見学し、心構えを学び、臨床で行われている病態評価表、施術法、患者対応を見て学ぶ。同時にその知識・技量を備えているかを試験にて行う。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	A 医療面接① / B 徒手検査法:頸部椎間孔圧迫徒手検査	
2	1	2	A 徒手検査法:頸部椎間孔圧迫徒手検査 / B 医療面接①	
3	1	2	A 医療面接② / B 徒手検査法:大腿部徒手検査	
4	1	2	A 徒手検査法:大腿部徒手検査 / B 医療面接②	
5	1	2	A 医療面接③ / B 徒手検査法:胸郭出口症候群徒手検査	
6	1	2	A 徒手検査法:胸郭出口症候群徒手検査 / B 医療面接③	
7	1	2	A 触診(上肢) / B 徒手検査法:仙腸関節徒手検査	
8	1	2	A 徒手検査法:仙腸関節徒手検査 / B 触診(上肢)	
9	1	2	A 触診(下肢・体幹) / B 徒手検査法:腱板損傷徒手検査	
10	1	2	A 徒手検査法:腱板損傷徒手検査 / B 触診(下肢・体幹)	
11	1	2	A バイタルサイン測定① / B 徒手検査法:上腕二頭筋長頭腱断裂・円回内筋症候群徒手検査	
12	1	2	A 徒手検査法:上腕二頭筋長頭腱断裂・円回内筋症候群徒手検査 / B バイタルサイン測定①	
13	1	2	A バイタルサイン測定② / B 徒手検査法:上腕骨外側上顆炎・手関節軟部組織損傷の徒手検査	
14	1	2	A 徒手検査法:上腕骨外側上顆炎・手関節軟部組織損傷の徒手検査 / B バイタルサイン測定②	
15	1	2	A 評価法① / B 徒手検査法:膝靭帯損傷の徒手検査	
16	1	2	A 徒手検査法:膝靭帯損傷の徒手検査 / B 評価法①	
17	1	2	A 評価法② / B 徒手検査法:アキレス腱断裂・足関節外側靭帯損傷徒手検査	
18	1	2	A 徒手検査法:アキレス腱断裂・足関節外側靭帯損傷徒手検査 / B 評価②	
19	1	2	総合演習①	
20	1	2	総合演習②	
21	1	2	総合演習③	
22	1	2	単位認定試験	
23	0.5	1	解答・解説と施術録作成	
合計				
23	22.5	45		
学習方法				
1) 板書及び説明 2) 実技実習 3) Aグループ:5階接骨院 / Bグループ:6階柔整第1実習室				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席)				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
包帯固定学:南江堂 柔道整復学 実技編:南江堂 一般臨床医学:医歯薬出版				
教員について【実務経験有】				
(藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。 (天和先生)柔道参段、整形外科での実務経験が約7年。現場で診させていただいて得た知識・技術を基にして、基礎はもちろんのこと、臨床経験も交えながら、授業を展開します。 (伊藤先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。				

2024年度 授業要項

区分	応用分野		履修学年/昼夜別	第1学年/昼
科目名	職業教育 I		履修単位/時間	1単位/15時間
教員資格	実務を通じて教育経験がある者		使用教室	第1柔整普通教室他
教員名	齋藤 貴司 大野 政明		講義形式	講義
学習目標と講義概要	自分が目指す職業が社会生活の中でどのような役割を持っているかを理解し、柔道整復師という職業について主体的に考えられる能力を身に付けることを目的とする。 具体的には、柔道整復術を通じて社会貢献を行うための基礎知識の理解を深め、自分が目指す柔道整復師像について説明できるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	柔道整復師のキャリアについて	
2	1	2	企業来校型現場学習会1	
3	1	2	企業来校型現場学習会2	
4	1	2	キャリア教育セミナー1	
5	1	2	キャリア教育セミナー2	
6	1	2	企業来校型現場学習会3	
7	1	2	企業来校型現場学習会4	
8	0.5	1	キャリア教育セミナー3	
合計				
8	7.5	15		
学習方法 1)板書及び説明、解説 2)資料配付				
評価方法 授業への主体的な参加の度合いおよび提出物の完成度で評価を行う。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書等 資料配布				
教員について【実務経験有】 (大野先生)鍼灸接骨院および鍼灸柔整専門学校における実務経験を生かし授業を展開する。				